

## 令和5年度「令和における福生市立学校の在り方検討委員会」（第1回）感想等

1 コミュニティ・スクールの現状や課題等	
委員	<input type="checkbox"/> 本校のコミュニティ・スクールは、学校支援コーディネーターが、学校の要望に応じ地域のふさわしい人材を紹介して、学校の教育活動に関わってもらい、活動の充実につなげている。 <input type="checkbox"/> 学校支援の体制は組織だっではないため、今後体制作りが必要である。 <input type="checkbox"/> 子どもたちのための活動という点から、現在PTAで行っている企画等をコミュニティ・スクールにどのように関連付けていくかが必要である。 また、子どもの安全を見守る活動等にも関わってもらえる人材が必要である。 <input type="checkbox"/> 学校の応援団としての支援組織の体制を作るため、関わってもらえる人材の更なる掘り起しが必要である。
委員	6年目を迎える本校のCS委員会は、よく活動し、学校の教育活動に関心が高く、協力的である。協働意識や貢献度が高いメンバーが多い。その中にあって、課題は、学校が抱える多様な課題や問題、学校特有の特殊性、アフターコロナなど、現場が変化や変更を余儀なくされるなど多岐に渡る実態に対し、CS委員のメンバーがしっかりと現状等を把握・理解した上で運営協議会に臨むことが難しいと考える。毎回のCS委員会で、教育活動や現状における問題点の説明をしているだけで、かなりの時間がかかってしまい、課題等に対する十分な話し合いの時間がとれない。そのため、ポイントを絞って取り組んでいる。一方、今年度は、なかなか理解が難しい特別支援教育の領域に視点をあて、理解を深めようと計画を委員長と考えている。
委員	<input type="checkbox"/> メンバーが固定化している。 <input type="checkbox"/> CS委員の方が学校のためにしてくれていることが日常的になりすぎて、当たり前のような受け止め方をしている教員がいる。
委員	<input type="checkbox"/> CS委員会では、学校運営協議会としての役割はもちろんのこと、学校支援地域組織（ファンクラブ）としての学校支援を、大変活発に行っていただいているのが特徴である。 <input type="checkbox"/> CS委員会のメンバーは、現PTA会長と元PTA会長が4名、教育関係者として元校長1名・保育園園長1名、主任児童委員1名、本校卒業生の税理士、消防団員など、幅広い人材で構成されている。中でも、PTA活動を中心になって推進してきた経験者が多い。 <input type="checkbox"/> 学校・CS委員会・PTAの距離が近く、良好な連携がとれている。 <input type="checkbox"/> CS委員会の学校運営協議会としての機能について、保護者や教職員の理解が浅いと感じる。CS委員会の活動を積極的に発信し、理解を深めることが課題である。
委員	現在は、コミュニティ・スクール委員の方々に学校の行事等の支援を行っていただき、教員の負担軽減につながっています。今後も、学校とコミュニティ・スクール委員双方が無理なく協力し、学校への教育活動を充実させていくことを進めていきたいと考えます。
委員	コロナ対応もあって、新たな人材発掘が難しい状況ですが、現在関わっていただいている皆様は、大変協力的でおおいに助かっています。
委員	<input type="checkbox"/> ある一定のスタイルが確立しつつあり、どの教職員とも直接関わっていただき共同・協働で児童のための教育活動を進められている。 <input type="checkbox"/> 地域に「コミュニティ・スクール」を浸透させ広げていくには、新たな人材の発掘が必要。学習活動に直接関わってくださるゲストティーチャーにしてもコミュニティ・スクール委員にしても、引き継いでいくことのできる流れを作るのは課題であると思う。 <input type="checkbox"/> 保護者へのPRが必要。コミュニティ・スクールであることやどんな活動で子どもたちの学習に関わり、学校運営の力になっていただいているかは伝えているが、その意義やこれからについては伝えきれていないのが課題である。
委員	本校のCS委員は半数が小学校のCS委員と重複しています。小中連携（9年間の見守り）、地域密着（地域とのかかわり）という点で、常に情報が共有されていることについてはメリットが大きいと感じます。一方、人材に大きな変化がないことで、今後活動が硬直化してしまうおそれもあるように思います。
委員	本校では、CS委員が主体となり、放課後学習教室（水曜教室）や地域清掃活動等、CS導入以前にはなかった地域との協働の取組ができています。その一方で、保護者からは、これらの活動がコミュニティ・スクールの活動のようにも捉えられ、PTA活動と同様に、教員の考えた教育活動に御協力をいただいているという域の中で収まっているようにも思える。 本市のコミュニティ・スクールのあり方として、学校運営協議会と学校支援組織を分けないことは実効性の観点からも有効的と考える。さらに本校では、今後のCSの方向性として、学校運営協議会に学校側から様々な学校の課題を提示し、その対応策について御意見をいただくよう、組織の意義を明確に出した上で、学校支援地域組織の活動に力を入れていき、本質的な協働を目指していきたい。
委員	本校のCSの現状は、今年で4年目を迎え、新型コロナウイルス対応の影響を受けながらも、年を追うごとにその活動（四地区水・防災訓練・七五三挨拶運動・地域清掃・地域の人材から学ぶ・植栽、落ち葉掃き等）も安定感が増し、地域に開かれた学校の実現に向け着実に前進している。生徒がいくつかの地域行事に参加することで地域行事を盛り上げ、生徒も「ありがとう」と住民から言ってもらえた等、自己有用感が高まりお互いにプラスになっている。
委員	PTA役員を2年目で、まだ見識が浅く勉強させていただくことが多くあります。まだ、CS活動の現状・課題というよりも、まずは自分自身の理解を深めていくことに努めてまいりたいと思います。子どもたちの笑顔のために微力ではございますが努力していきたいと思っています。
委員	<input type="checkbox"/> 本校のCSの現状は各委員の意識が高く協力的で活発な活動ができていると感じています。引き続き現在の活動を続けることが子どもたちの成長に必ずつながると考えています。 <input type="checkbox"/> 小職が感じている“学校の敷居が下がった”ことはCS委員、地域の方にとって学校との関わりを深めることに役立っており学校と地域の関係が良くなりました。 <input type="checkbox"/> 次に現状の中で考えられる課題を列記しますと ① CS委員会本来の役割：学校評議員、学校関係者評議員の役割は未だ不十分で、CS委員の役割は学校支援地域組織との連携活動に終わることなく児童の豊かな学校生活実現を目的とした協働を如何に実現するか課題が残っています。ただし各CS委員会の特色を尊重し本来の役割定着化には時間をかけた方がよい。 ② 家庭、地域ではCS制度があることを知っている程度で、未だ理解度は高まっていない。地域が一体となって子どもを育てる福生の教育目標を机上に終わらせないために学校が家庭、地域とのかかわり方をCS委員との連携を密にし、粘り強い取組を続けることが課題解決につながる。 ③ 中長期的な視点で10年後の学校の姿を学校・家庭・地域が共有できるよう、先ず子どもたちに自分ごととして目標をもてる様にして家庭が我が子の将来と向き合うことの大切さを醸成し、その延長線に地域の応援がつづく様な将来を望みたい。
委員	せっかく良い制度なのに、地域の方々があまりにも知らなすぎるので、もっとアピールしていきたい。
委員	検討委員会の各委員の意見をお聞きして感じたことですが、CS委員会の組織の在り方自体にベクトルが向いている「内的指向」に自分自身も陥っているように思えました。 それは地域の方や保護者の方に「コミュニティ・スクールって何？」と聞かれても具体的に相手の方に形を示せない、具象化できないもどかしさがあります。企画された事業に参加しなくても、それぞれの今の立場で子供とかかわっていることがCSなんですと、意識を変革する努力が必要に思えます。 そのためにCS委員さんは子どもを中心に何をどうするか支援組織としての活動と併せて、学校運営にかかわり、校長先生はじめ先生方への支援を惜しまない活動を広くSNS等を活用して周知していくことが大事な時期だと思います。
委員	高齢化社会において持続可能な活動を、どうやって引き継いでいけるかという課題がある。
委員	私はコミュニティ・スクールとは何かというところからのスタートになります。コミュニティ・スクール委員の方のお話を聞き、とても重要なお役目をなさっていることが分かりました。

## 2 持続可能なコミュニティ・スクールの在り方～人材育成を中心に～

委員	幅広い年代で、子どもと関わり、学校の教育活動の充実に携わってもらえる人が増えるようにしてく。
委員	現在の構成メンバーで、指定校発足当時からメンバーは半数ほどであるが、主要メンバーの新陳代謝を図るのは難しい。後継者といっても時間・仕事・学校やCSの活動の理解など、求められる資質・条件が多い。 CS委員長や主要メンバーは、学校支援組織にも所属し、素晴らしい活躍をされている。そういった方々の高齢化・体力の不安など数年先のことを心配する声が高まっている。 次の後継で必須なのは地元の方で、根付いて活動できる方であるが、なかなか簡単には見付けることができない。CS委員会の活動とともに次の後継者探し、若手の育成など、しっかり意識して取り組んでいくことがとても重要になると考える。
委員	人材の定期的な入れ替えや引継ぎ、人選の仕方などがブラックボックスのようになっていていまだによく分からない。何かきまりや縛りがあるのかと思って色々聞いたりしているが分からず、明文化されてないか探しています。
委員	<input type="checkbox"/> 本校のCS委員は、PTA活動を積極的に推進してきた経験者が約半数を占めている。ボランティア精神に溢れ、子どもたちに夢と誇りを育みたいという共通の志をもつ人材が、今後も本校のコミュニティ・スクールを支えてくれると信じている。 <input type="checkbox"/> 欠員が出た場合、充て職として同じ立場の方にCS委員を依頼する流れがある。
委員	<input type="checkbox"/> 短期的には、現在のコミュニティ・スクール委員の方々と共に地域の人材の把握や組織的な協力体制を構築していく。その中で、学校の必要な支援についてシステム化しつないでいくと良いと考える。 <input type="checkbox"/> 長期的には、学校が地域の中心となり、PTAを含め地域を巻き込み協力体制を構築していき、学校への関わることへの壁を低くして理解者を増やし、人材が集まるようにしてく。
委員	本校のコミュニティ・スクール委員会を開催する際は、委員の皆様が守秘義務をもつ非常勤の公務員であることを意識して内容を計画しています。したがって学力や生活指導上の課題をつまびらかにし、忌憚のない御意見を伺いながら改善策を協議しています。そもそも教職員は限られた年数しかその学校に在籍することができないため、「地域の子は地域で育てる」との理念を尊重し、学校を含めた、地域の子どもに関わる全ての大人が課題解決に協働していくことが重要だと考えます。その意味で、心から「地域を愛する人」、「地域をよくしたいと考える人」こそが、コミュニティ・スクール委員であってほしいと思います。
委員	学校の教育活動の課外の部分で、PTA活動と連携・連動することによって、同じように子どもたちを思う気持ちを共有するとともに、大人自身が一緒に楽しむことができる、互いが知り合い協働・参画への関心ももてるのではないかと。 また、コミュニティ・スクール委員プラスのような人材を募集し、一緒に活動する仲間から始め、ゆくゆくは委員として引き継げる（引き継ぎたいと思える）ようにしていくのはどうか。
委員	CS委員は10人ですが、持続可能なCSにするためには、校区住民による、本校を核とした地域コミュニティが作られることが望ましいと思います。 本校には「おやじの会」というサポート組織があります。おやじの会は、本校在校生、卒業生の保護者のうち、主旨に賛同する希望者から構成されています。細かな規約や費用負担がなく、イベント等はSNSによって周知され「無理をせずに、できるときにできる人が参加する」をモットーに「ゆるやか」につながっています。おやじの会には新しい保護者の中からも年々入会者がいるため、年々世代が広がっています。この「おやじの会」は、学校を中心とした新しい地域コミュニティに成長していく可能性を秘めているように感じています。
委員	学校支援地域組織による教育活動に関して、一つの教育活動に固執してしまうと学校の力だけで持続可能なものとするは大変難しいと考える。地域内で指導をすることができる人材を継承していくことが必要であり、そのことを学校運営協議会で検討することになる。私個人としては、学校の課題が何で、その改善のためにできる教育活動を、その時代の学校運営協議会委員で検討していくことが必要であり、学校支援地域組織のメンバーだけでなく、可能ならば御意見をいただける学識等が入ることにより、道は開けていくのではないかとと思う。
委員	持続可能な活動にするために、メンバー10人の学校運営協議会（CS委員会）の活動は年々安定してきているが、地域からのスタッフ（実働部隊）の数が伸び悩んでいて、CS委員会で設定した計画を確実に実行するための人数の確保がまだ、できていない。残念ながら人材育成の視点にまで至っていないのが現状である。
委員	委員会の中でも、ご意見が出ておりましたが、思いを多くの人に伝えていくことは大切で重要なことだと思います。
委員	<input type="checkbox"/> 子どもの育ちを支える大人が一人でも多く増えることが持続可能なコミュニティ・スクールの第一歩です。「子どもと地域の大人が出会う」お互いの成長へつながる。 <input type="checkbox"/> 学校経営者、CS委員が代っても各CS組織が変わらずに続いていくこと、維持できないことを回避できるまでCS組織が安定成長できるように固定観念に捉われず良い点の継承と時代に合った進化を進めることが大切と考えます。 <input type="checkbox"/> 少子高齢化や核家族化等の社会環境の変化の中で、福生の教育環境は現状において一時的な良好な要因を追うことなく短期的、中長期的な視野の両面からCS委員の人材は幅広く掘り下げ、より多くの大人が学校運営に係る気運を高め、合わせてCS委員の世代承継を上手く行っていただきたい。
委員	地域で一番大きな組織は町会なので、CS委員のメンバーには是非、町会の三役レベルの方が入っていてほしいです。
委員	どのような人材が求められているのかCS委員会でしっかりもんでいくことが第一歩。一番の人材は保護者、地域の皆さんではないでしょうか。無理なく日常の延長として児童生徒が楽しく学校生活を送れるように、できる時に参加協力する、緩やかなネットワークの中から子供と一緒に成長できる活動の実践を通して連綿とネットワークは維持できるものと思います。 ここまで学校の敷居を低くしていただいたわけですから、一人でも多くの方が手を携えて、一歩敷居をまたぐことができるようにしていきたいものです。
委員	普段から、学校と保護者と地域が連携を密にしていくことが、win-winに繋がることになると考える。 そして、自分のメリット・デメリットだけを考えるより、無理なく少しずつでも、できることをできる人が助け合って課題を解決していくことが大切ではないだろうか。 その心根を持っていける人の背中を、純粋な子どもたちがしっかりと見ている。 その活動は、とても地味で長い時間を要するが、教員も保護者・地域も、子どもたちの成長を信じていく先に、コミュニティ・スクールのDNAが必ず受け継がれていくと思う。 今いる学校の特色を生かす智慧を、皆で出し合いたい。
委員	各学校との関係を大事にしたいと日頃から思っていました。今の立場で何が出来るのか、皆様と一緒に勉強させていただきたいと思っています。